

令和5年度第1回浜田市総合教育会議

日 時 令和5年5月10日(水) 15時から16時15分まで(予定)
場 所 浜田市役所3階庁議室
構成員 久保田市長 砂川副市長
岡田教育長 杉野本委員 花田委員 岡山委員 倉本委員
事務局 草刈教育部長 藤井教育総務課長 山口学校教育課長
鳥居学力向上推進室長

1 市長あいさつ

2 協議事項

(1) 教育行政に係る意見交換

ア 令和4年度の振り返りについて……………資料1

3 その他

令和5年度第1回浜田市総合教育会議名簿

1 構成員

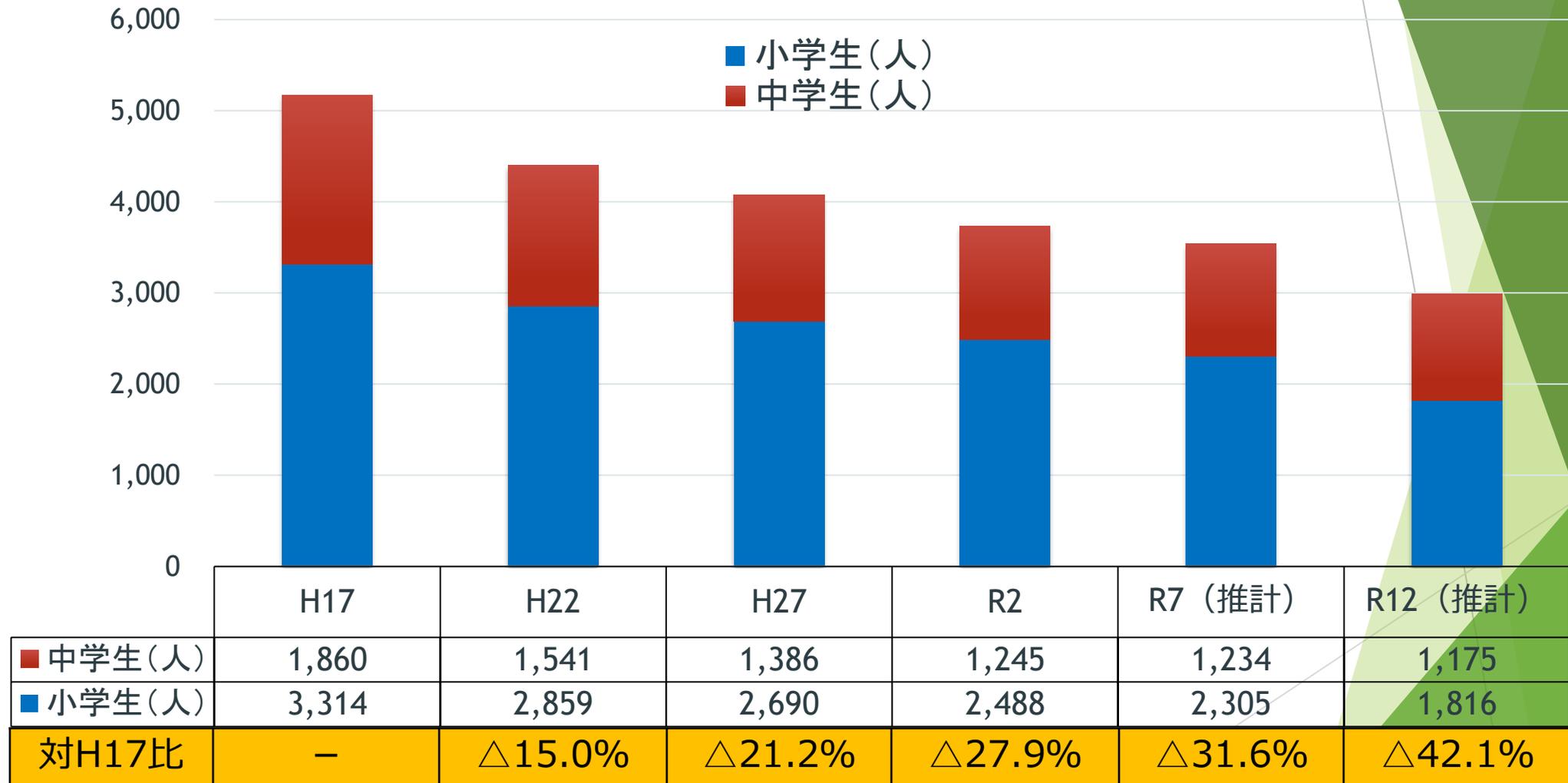
職名	氏名	備考
市長	くぼた しょういち 久保田 章 市	
副市長	すながわ あきら 砂 川 明	
教育長	おかだ やすひろ 岡 田 泰 宏	
委員	すぎのもと ともゆき 杉野本 智 幸	教育長職務代理者
委員	はなだ かおり 花 田 香	
委員	おかやま れいこ 岡 山 令 子	
委員	くらもと いちぞう 倉 本 一 三	

資料1

第1回浜田市総合教育会議資料

令和5年5月10日
浜田市教育委員会

浜田市の児童生徒数の推移（5年ごと・5月1日時点）



教科の平均正答率

(1) 小学校

	平均正答率 (%)					
	浜田市	島根県	全国	差 (市-県) 〈昨年〉	差 (市-国) 〈昨年〉	差 (県-国) 〈昨年〉
国語	60.0	64.0	65.6	-4.0 〈-2.0〉	-5.6 〈-3.7〉	-1.6 〈-1.7〉
算数	57.0	61.0	63.2	-4.0 〈-3.0〉	-6.2 〈-6.2〉	-2.2 〈-3.2〉
理科	57.0	62.0	63.3	-5.0 〈-4.0〉	-6.3 〈-6.3〉	-1.3 〈-2.3〉

県との差：前回調査より【国語-2.0】【算数-1.0】【理科-1.0】ポイント

国との差：前回調査より【国語-1.9】【算数±0】【理科±0】ポイント

(2) 中学校

教科の平均正答率

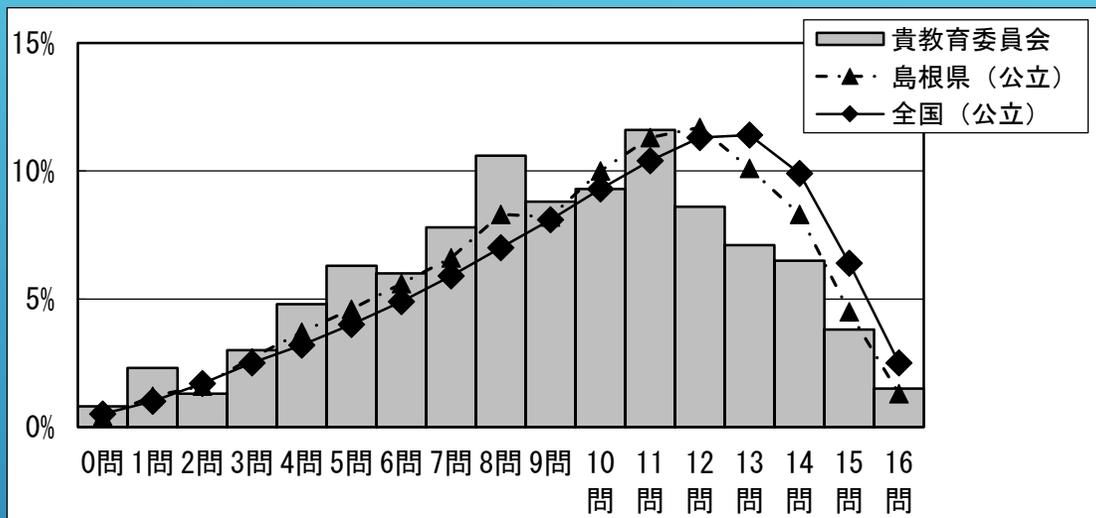
	平均正答率 (%)					
	浜田市	島根県	全国	差 (市-県) 〈昨年〉	差 (市-国) 〈昨年〉	差 (県-国) 〈昨年〉
国語	69.0	69.0	69.0	±0 〈-1.0〉	±0 〈-3.6〉	±0 〈-2.6〉
数学	46.0	49.0	51.4	-3.0 〈-2.0〉	-5.4 〈-6.2〉	-2.4 〈-4.2〉
理科	47.0	48.0	49.3	-1.0 〈-4.0〉	-2.3 〈-4.1〉	-1.3 〈-0.1〉

県との差：前回調査より【国語+1.0】【数学-1.0】【理科+3.0】ポイント

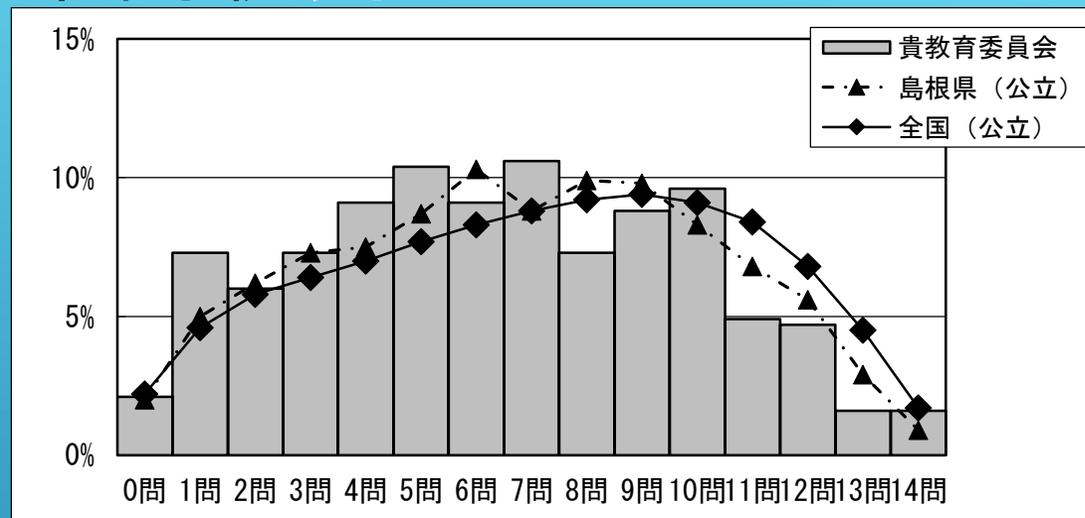
国との差：前回調査より【国語+3.6】【数学+0.8】【理科+1.8】ポイント

正答率分布

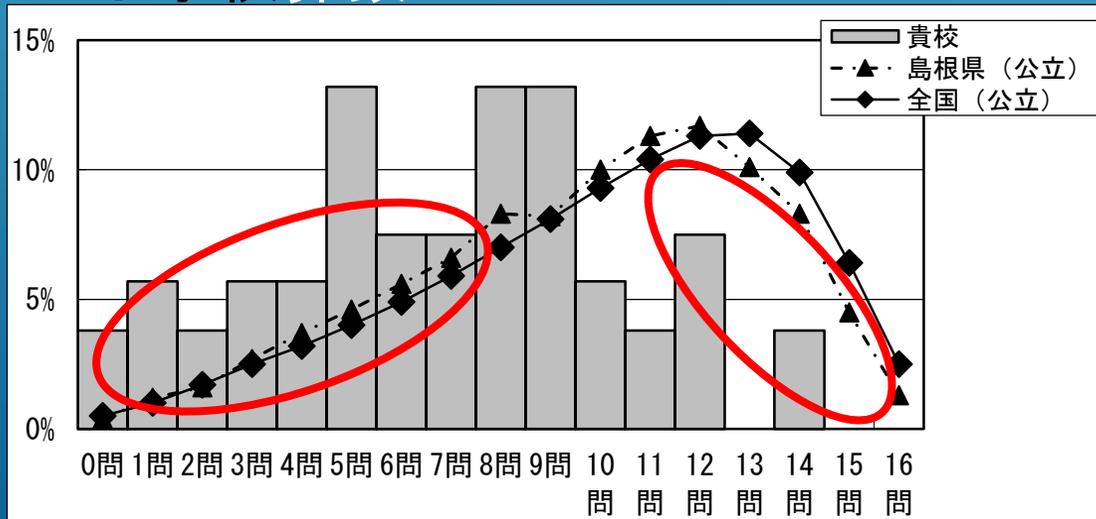
市小学校算数



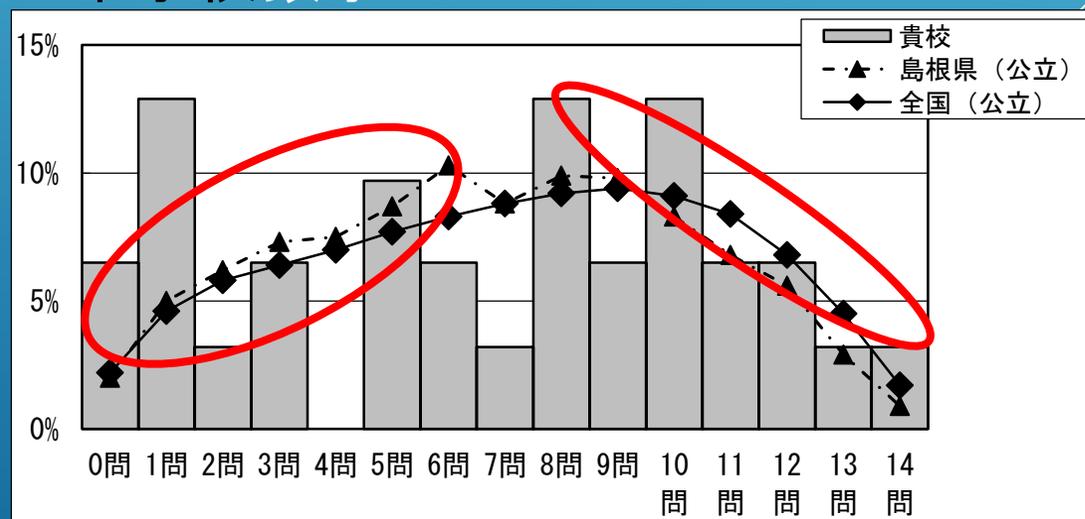
市中学校数学



A 小学校算数



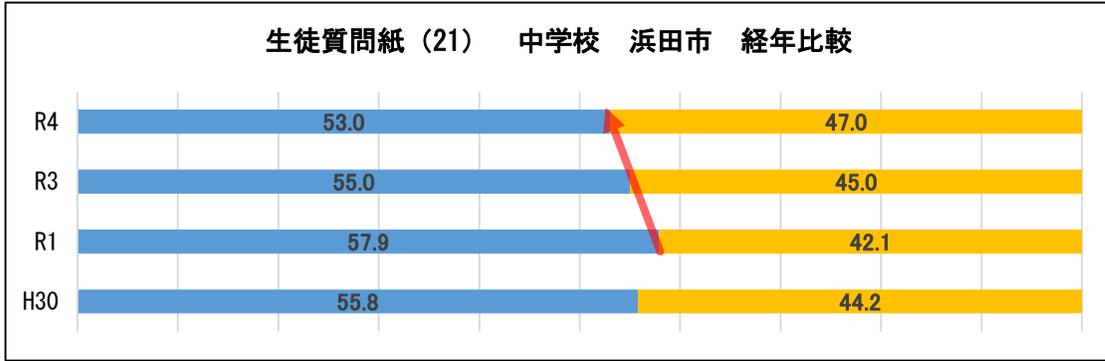
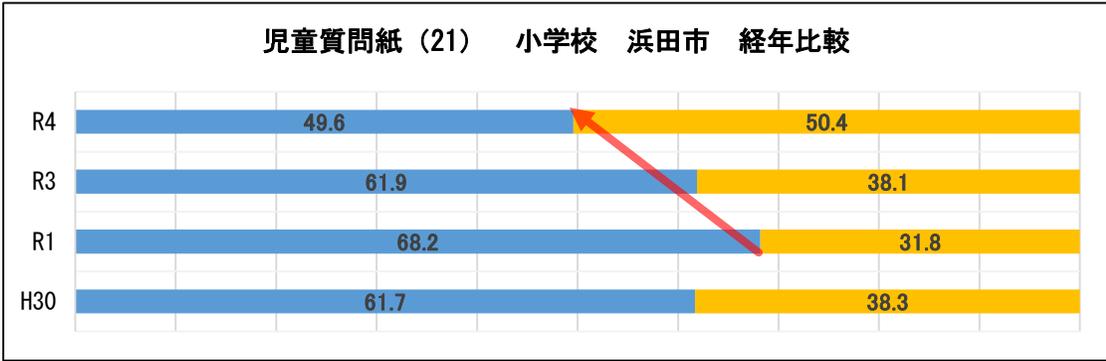
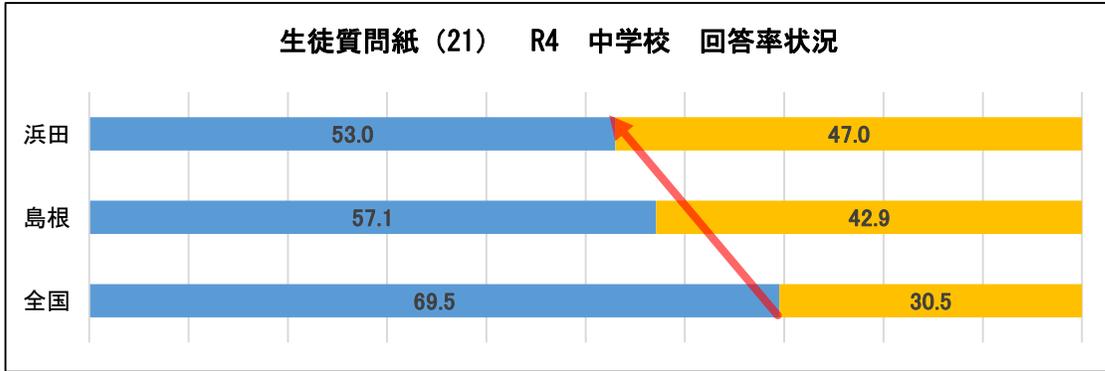
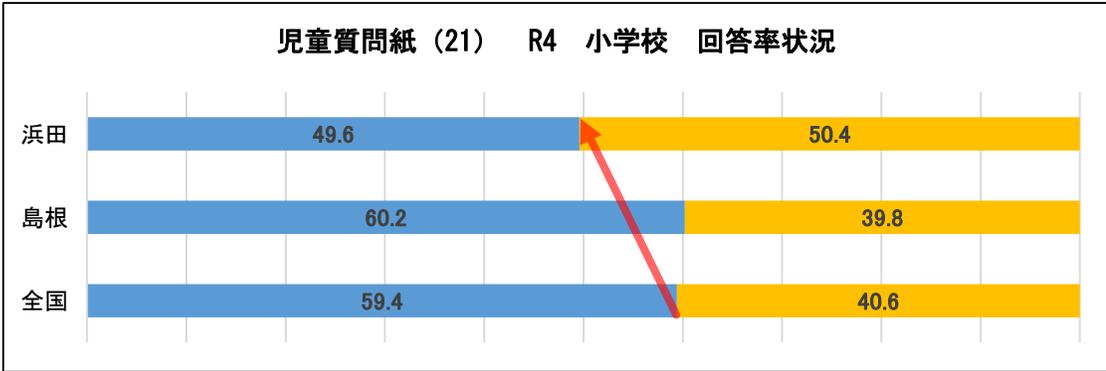
B 中学校数学



中正答率層、高正答率層への移行が急務。一斉指導で対応ができるのか？

家庭学習の浜田市の状況

【児童生徒質問紙】 2 1 学校の授業時間以外に、普段、1日当たり1時間以上、勉強をしていますか

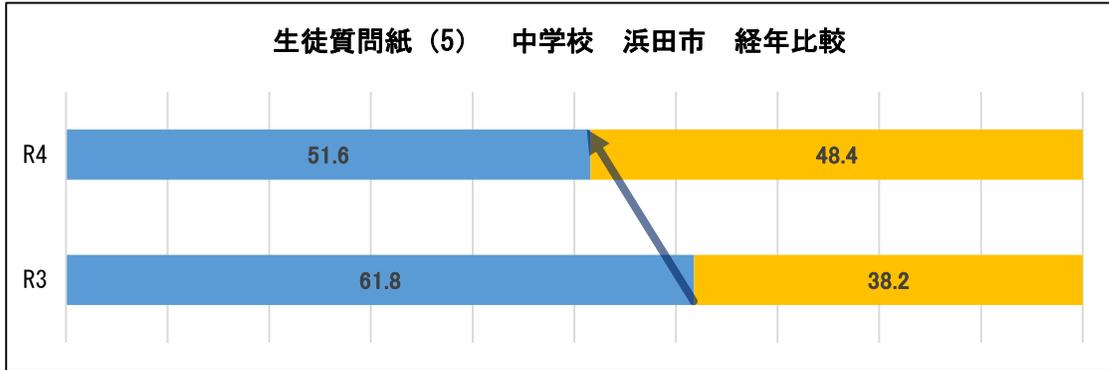
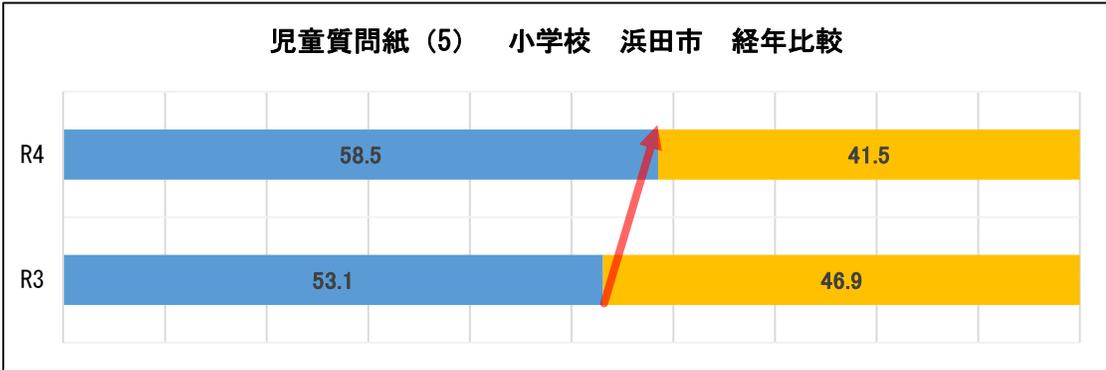
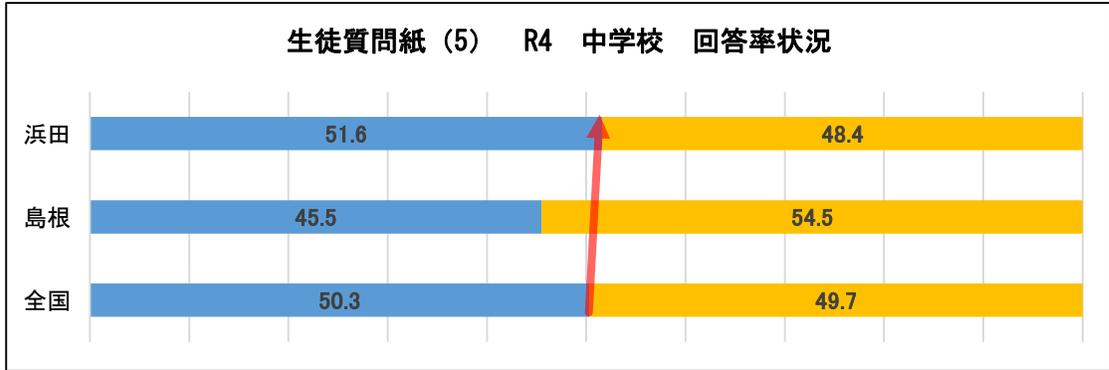
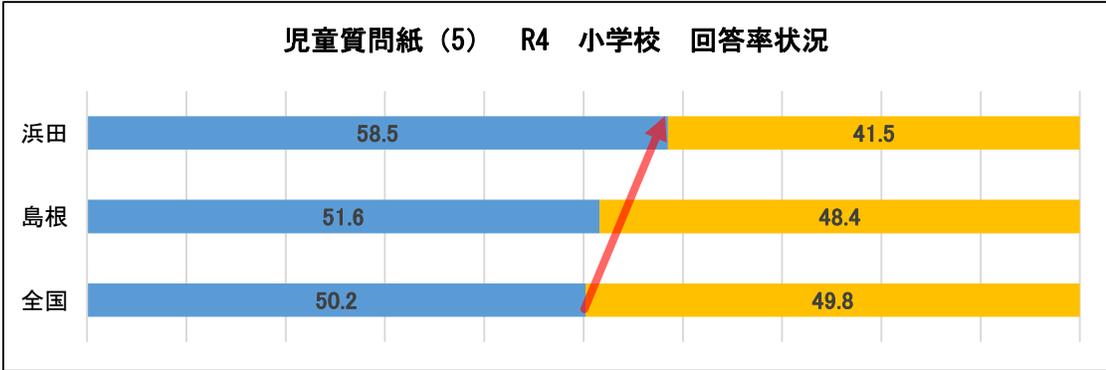


小中学校ともに全国・県を下回っている。約半数の児童生徒しか1時間以上の授業時間以外の学習をしていないのは問題である。市の経年比較では、R1年度以降下降している。

小中連携教育の重点取組である。学級活動等において共通の指導方法により、全校体制で家庭学習の取組についての授業を行っている学校もある。各学校で取組への工夫をし、共通理解の下の共通実践が必要。

メディア接触の浜田市の状況

【児童生徒質問紙】 2 1 普段、1日当たり2時間以上、テレビゲームをしますか



小中学校ともに全国・県を下回っている。小学校では昨年度より割合が増加している。中学校については、改善が見られ全国との差も少なくなってきた。小中連携教育の重点取組である。日々の取組チェックを継続するとともに、定期的な振り返りで改善を目指してほしい。学校として、共通理解の下の共通実践が行われているかどうかの確認も必要。

いじめの件数（各年度末時点）

(人)

年度	H30 (A)	R1	R2	R3	R4 (B)	4年前との対比 (B-A)/(A)
小学校	241	283	246	224	297	23.2%
中学校	63	92	73	114	93	47.6%
合計	304	375	319	338	390	28.3%

- 「いじめゼロ」を目指す → 「いじめ見逃しゼロ」を目指す
(客観的な見立てではなく、自らそう感じたものはいじめと捉える)

小中学校の不登校者数

(人)

年度	H30 (A)	R1	R2	R3	R4 (B)	4年増減率 (B-A)/(A)
小学校 (割合)	30 (1.2%)	30 (1.2%)	33 (1.3%)	39 (1.6%)	50 (2.1%)	66.7%
中学校 (割合)	59 (4.5%)	46 (3.6%)	46 (3.7%)	71 (5.8%)	77 (6.3%)	30.5%
合計 (割合)	89 (2.3%)	76 (2.0%)	79 (2.1%)	110 (3.0%)	127 (3.5%)	42.7%

特別な支援を必要とする児童生徒の状況

【特別支援学級の児童生徒数（各5月1日時点）】

(人)

年度	H30 (A)	H31	R2	R3	R4 (B)	4年増減率 (B-A)/(A)
小学校	87	87	95	107	117	34.5%
中学校	30	35	43	51	47	56.7%
合計	117	122	138	158	164	40.2%

【通常学級在籍の特別な支援が必要な児童生徒数】

(人)

年度	H30 (A)	H31	R2	R3	R4 (B)	4年増減率 (B-A)/(A)
小学校 (割合)	304 (12.3%)	288 (11.9%)	314 (13.1%)	275 (11.8%)	316 (13.8%)	3.9%
中学校 (割合)	118 (9.1%)	148 (11.9%)	117 (9.7%)	105 (8.9%)	74 (6.3%)	△37.3%
合計 (割合)	422 (11.2%)	436 (11.9%)	431 (12.0%)	380 (10.8%)	390 (11.3%)	△7.6%

【上記の合計】

(人)

年度	H30 (A)	H31	R2	R3	R4 (B)	4年増減率 (B-A)/(A)
小学校	391	375	409	382	433	10.7%
中学校	148	183	160	156	121	△18.2%
合計	539	558	569	538	554	2.8%

通級指導教室の利用者数（各年度末時点）

(人)

年度	H30 (A)	R1	R2	R3	R4 (B)	4年増減率 (B-A)/(A)
小学校 (割合)	105 (4.1%)	107 (4.3%)	110 (4.4%)	103 (4.2%)	108 (4.5%)	2.9%
中学校 (割合)	31 (2.3%)	44 (3.4%)	47 (3.8%)	47 (3.8%)	44 (3.6%)	41.9%
合計 (割合)	136 (3.5%)	151 (4.0%)	157 (4.2%)	150 (4.1%)	152 (4.2%)	11.8%

学校支援員配置状況

(千円)

年度	R1決算 (A)	R2決算	R3決算	R4予算	R5予算 (B)	4年の増減率 (B-A)/(A)
事業費	22,968	39,465	40,750	47,490	44,660	94.4%
うちコロナ交付金	—	4,348	11,788	11,836	5,430	
実質（市費）	22,968	35,117	28,962	35,654	39,230	70.8%

教職員の平均残業時間（目標：45時間/月以内）

【令和4年度（管理職、3月は除く）】

小学校

33時間/月

中学校

47時間/月

※厚生労働省が示した健康障害リスクが高まる過労死ライン

「月100時間を超える」または「2～6か月間にわたり月80時間を超える」時間外労働